

海洋産業の振興に向けた事業実施計画（抜粋版）

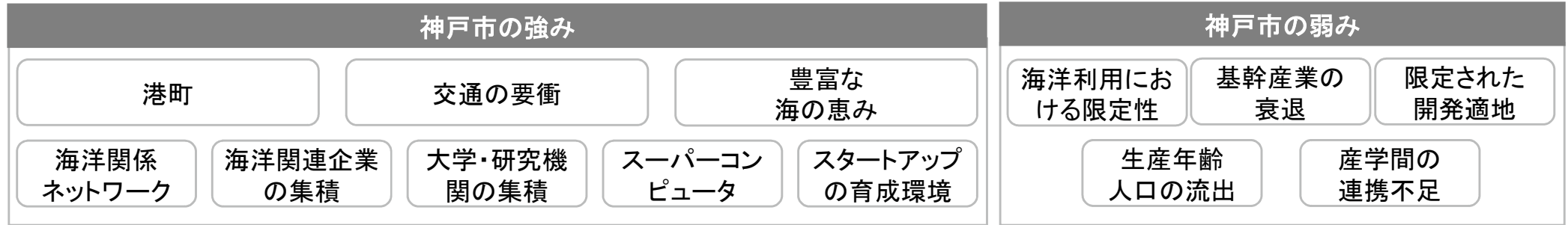


神戸市

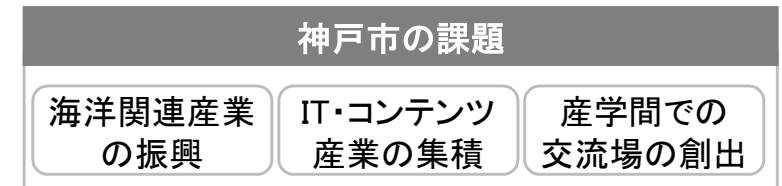
令和3年3月31日

神戸市の強みを活かしつつ、弱みから導出された課題を解決するため、知の集積を目指す

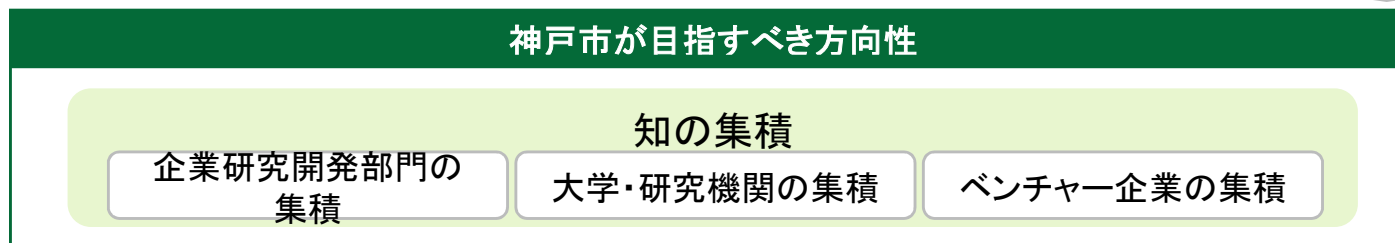
海洋産業振興において神戸市が目指すべき方向性



海洋に関連する大学・企業といった新たな技術サービスを、創出するプレイヤーが集積しているため、その強みを活かした方向性を検討すべき



産業構造の転換を図り、稼げる産業を構築するためには、クリエイティブ産業の集積が必要

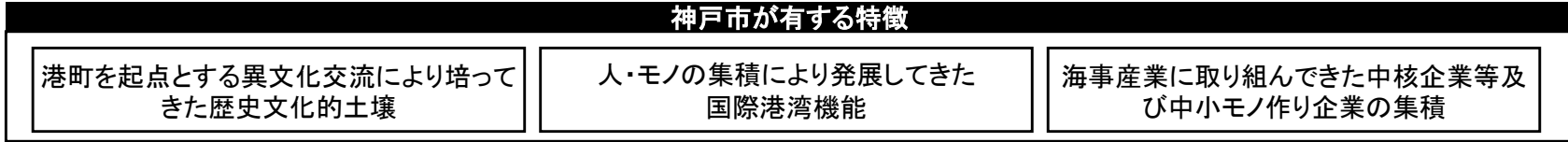


知の集積を加速させるため、神戸市の強み課題を踏まえ、重点的に取り組むテーマ選定が必要

- ①港湾機能高度化・強靱化
- ②水素エネルギーの実用化
- ③海洋ロボット
- ④水産業へのIT活用

知の集積及び事業化を加速させるための仕組みが必要

- ①海洋産業ネットワークの構築
- ②情報の収集・発信
- ③プロジェクトコーディネート
- ④共同研究・開発オフィス/テストフィールド
- ⑤海洋ビジネス・開発サポート
- ⑥普及啓発



集積・連携

集積・連携

情報の収集・発信

普及啓発

- ✓ 国内外の先端情報の収集・発信
- ✓ 海洋ビジネスコーディネーター(海外)
- ✓ 海洋都市としてのブランディング
- ✓ 海洋データの活用・産業利用促進

- ✓ 産学官及び企業間連携の促進
- ✓ 海洋関係者間交流促進
- ✓ 他都市との連携(防災/産業創出/観光等)

- ✓ 海洋人材の育成支援

海洋産業 × 知の集積

海洋に関連する産業高度化・振興に向けたワンストップ支援

共同研究開発オフィス・テストフィールド

ビジネス/開発サポート

個別プロジェクトのコーディネート

PJ組成・支援

PJ組成・支援

- ✓ 研究開発の促進
- ✓ 教育・訓練の実施

- ✓ 手続・契約・ファイナンス等のサポート

- ✓ 個別プロジェクトの実施・支援
- ✓ コーディネーター(海の専門家)



海洋ロボット

出典: Heriot-Watt University

安全性・効率性の追求を通じたオフショア産業の高度化及び成長への貢献

- ・ テストフィールドの活用
- ・ 海洋ロボットの利活用促進



活用・展開

- ・ 洋上風力施設のメンテナンス
- ・ 海底資源調査・掘削等への活用
- ・ 水産業への活用

- ・ 海上構造物のメンテナンス



水素運搬



港湾機能高度化・強靱化

出典: 阪神国際港湾(株)

港湾機能の高度化による生産性向上・環境改善への貢献

- ・ カーボンニュートラルポート(CNP)の検討
- ・ CONPASの実用化に向けた促進
- ・ AI-IOTターミナル化の促進

PJ組成・支援

- ・ 災害耐性の強化に向けた海洋構造物等のデータ収集PJの組成

- ・ 水素燃料電池船の活用推進
- ・ 港湾内施設での水素活用



水素エネルギー実用化

水素社会の加速化・実現を通じた低炭素社会の実現

- ・ 実証事業への継続支援



水産業へのIT活用

出典: 東京産業(株)

スマート水産業の推進

- ・ 海洋関連産業の高度化に寄与するデータの特定及び仕組み等の構築
- ・ 海洋由来生物の活用促進(マリンバイオ・ブルーカーボン)

活用・展開

社会実装

各分野で抽出されるニーズ及び課題の解決に向けた取組の先端拠点となることを目指す

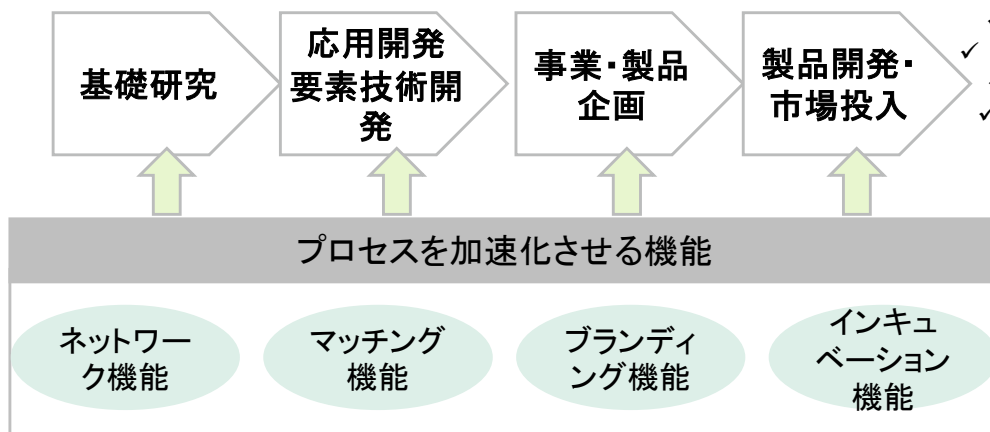
事業化プロセスを加速化させるために、6つの機能を具備しワンストップ支援を実施

海洋政策の推進方法

海洋産業×知の集積に求められる機能

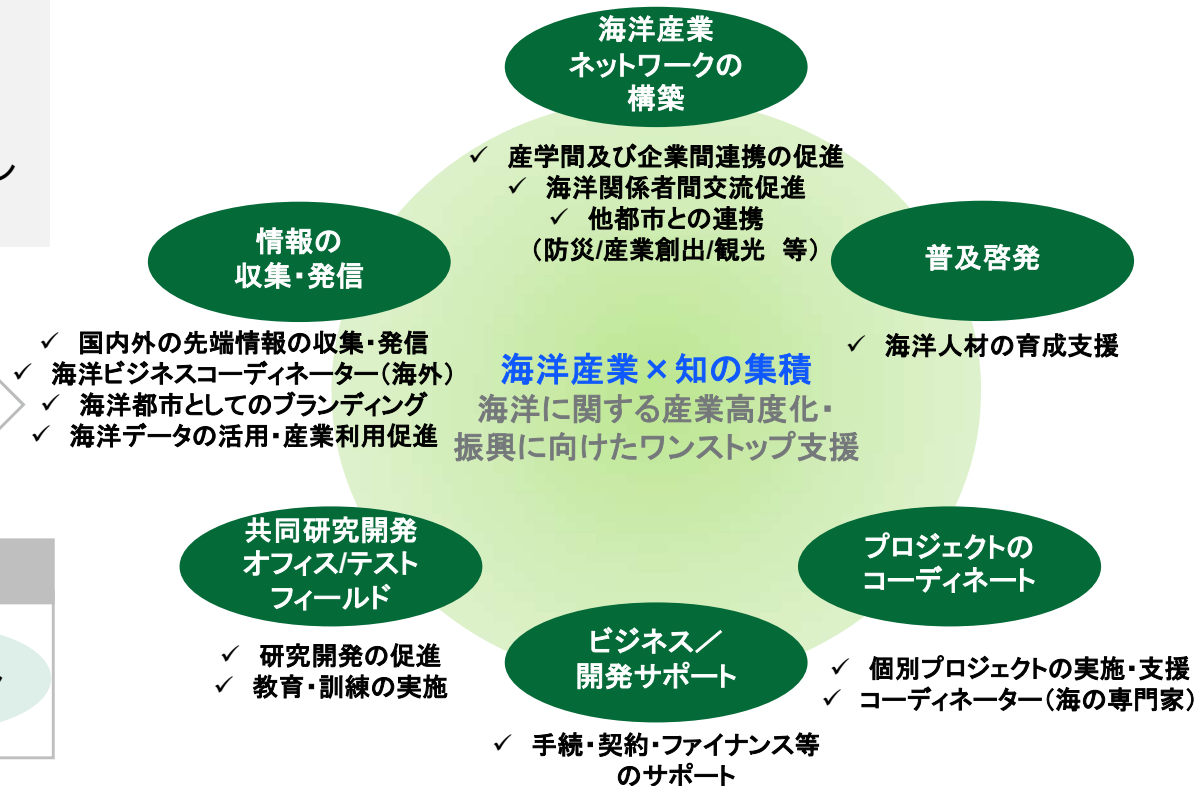
➤ 知の集積を図り、海洋関連産業を振興するためには、事業化を加速させる機能が必要であり、事業者や有識者からも当該機能に対するニーズが高かったことから、以下の機能を具備した取組が必要であるとする。

- ① 企業の誘因を進めるネットワーク機能
- ② イノベーションを創出するためのマッチング機能
- ③ 取組内容を広く認知してもらうためのブランディング機能
- ④ 研究・開発から事業化を促進するためのインキュベーション機能



海洋産業×知の集積に具備される6つの機能

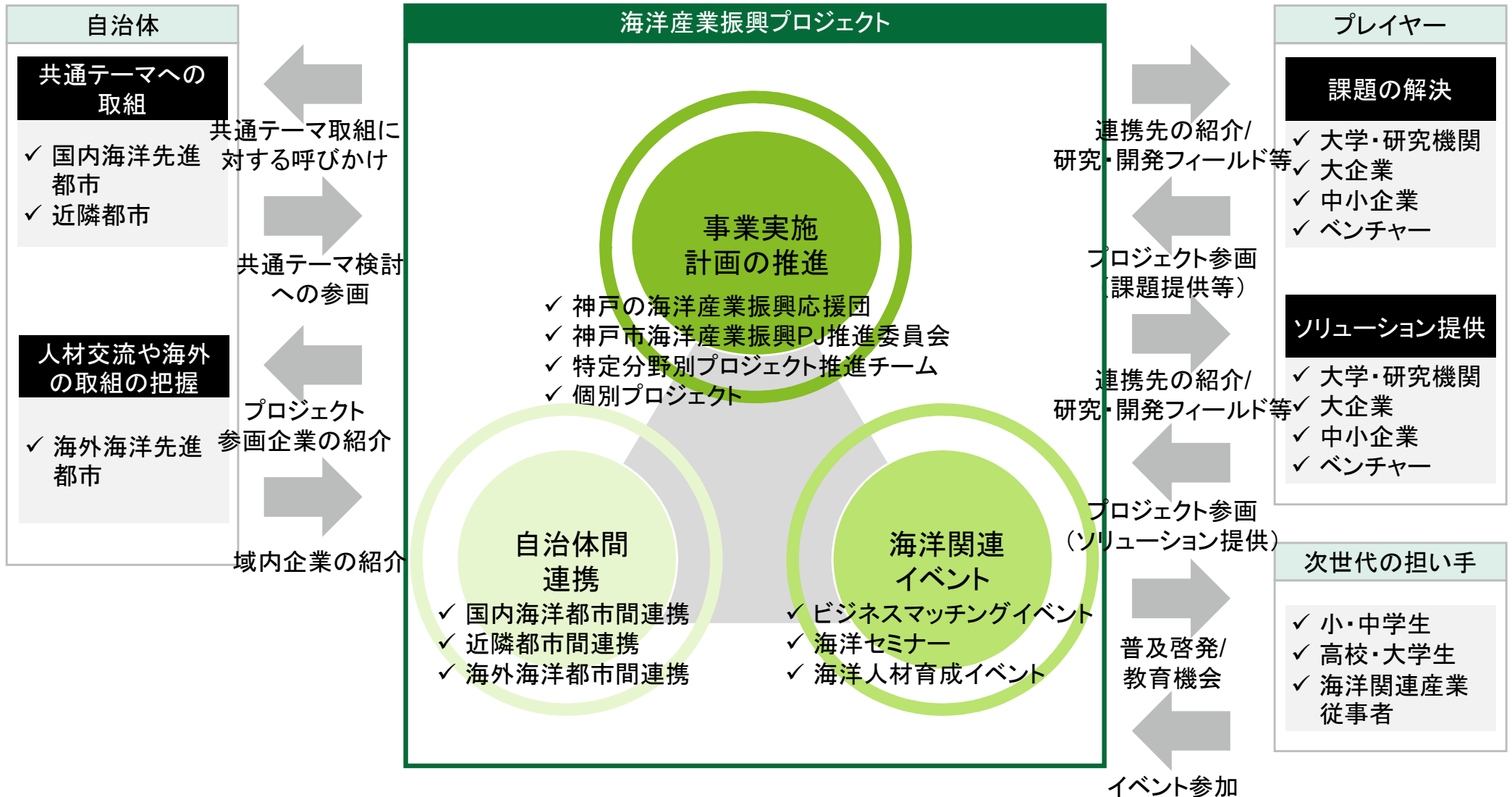
➤ 海洋関連産業における新たな事業化に向け、6つの機能を活用し支援することで、海洋関連産業の高度化及び振興に向けた支援をワンストップで行う



3つの取組を実施することで、そこに集う事業者や人材とのつながりから、ネットワークを構築

機能①: 海洋産業振興ネットワーク

海洋産業ネットワーク概念図



情報の収集・発信及びプロジェクトコーディネートの取り組み内容等を整理

機能②:情報の収集・発信

- 情報の収集・発信は、有力なプレイヤーを引き込む契機とすることや、事業化に向けた支援及び、神戸市の取組を広く国内外へ周知することで、海洋産業界における神戸市のブランド力向上を図ることを目的に、国内外の先端情報をコーディネーター等により収集し、HPやSNSを活用した情報の発信を行う

概要

対象	国内外における全ての事業者及び一般市民
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 国内外の最先端研究・技術動向の収集・発信 ② 海洋産業振興プロジェクトにおける取組の発信 ③ 海洋イベントの開催 ④ 海洋都市としてのブランディング
効果	<ul style="list-style-type: none"> ① 最先端の研究・技術動向を効率的に収集可能 ② 取組成果の対外的な発信効果の最大化

機能③:プロジェクトコーディネート

- プロジェクトコーディネートは、海洋産業ネットワークへ参画している事業者・大学等が抱えている課題の解決を図り、事業化を促進することを目的に、産学・企業間でのマッチングの推進から、プロジェクトの組成・事業化までの支援を伴走型で行う

概要

対象	事業者、大学・研究機関等の海洋産業ネットワーク参画者 <ul style="list-style-type: none"> ① 海洋関連企業・海洋産業に興味がある企業 ② ベンチャー企業 ③ 大学・研究機関 等
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 取組むべきテーマの創出・マッチング ② 事業化支援
効果	<ul style="list-style-type: none"> ① マッチング活動による産学・企業間連携の促進 ② プロジェクト支援活動による事業化促進

共同研究・開発オフィス/テストフィールド及び海洋ビジネス・開発サポートの取り組み内容等を整理

機能④: 共同研究・開発オフィス/テストフィールド

- ▶ 共同研究・開発オフィスについては、海洋における様々な研究・開発の促進及び入居団体間のコミュニティ形成によるイノベーションの創出を目的に、本市施設の活用や共同研究・開発オフィスの設置について検討
- ▶ テストフィールドについては、海洋ロボットの製品化に向けた性能テストなどを、簡易的に実フィールドで実施可能とすることで、海洋ロボットの機能向上・拡充を図り事業化の促進を図ることを目的に、公共施設や一定の海洋エリアでテストフィールドとして必要に応じて簡易に実証テストが行えるよう運用パッケージの構築を目指す

概要

対象	<p>国内外の海洋関連プレイヤー及び海洋に関心のある企業/スタートアップが対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 海洋関連企業・海洋産業に興味がある企業 ② ベンチャー企業(IT・ロボティクス等) ③ スタートアップ ④ 大学・研究機関
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究・開発施設の管理・運営 ② テストフィールドの管理・運営
効果	<ul style="list-style-type: none"> ① 共同研究・開発における場の提供によるイノベーション創出 ② 海洋ロボットなど海洋関連産業における事業化の促進

機能⑤: 海洋ビジネス・開発サポート

- ▶ 海洋に関する製品の実証実験や、事業化に向けた手続きなどを代理することで、産学・企業間連携を促進

概要

対象	<p>国内外における海洋関連プレイヤー</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 海洋関連企業・海洋産業に興味がある企業 ② ベンチャー企業(IT・ロボティクス等) ③ スタートアップ ④ 大学・研究機関
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 実証実験における手続き支援 ② 事業化に向けた契約等の手続き支援 ③ 事業化に向けた研究・開発資金等の支援
効果	<ul style="list-style-type: none"> ① 手続き簡素化によるテストフィールドを活用した実証実験の促進 ② 契約・資金調達支援による事業化の加速化

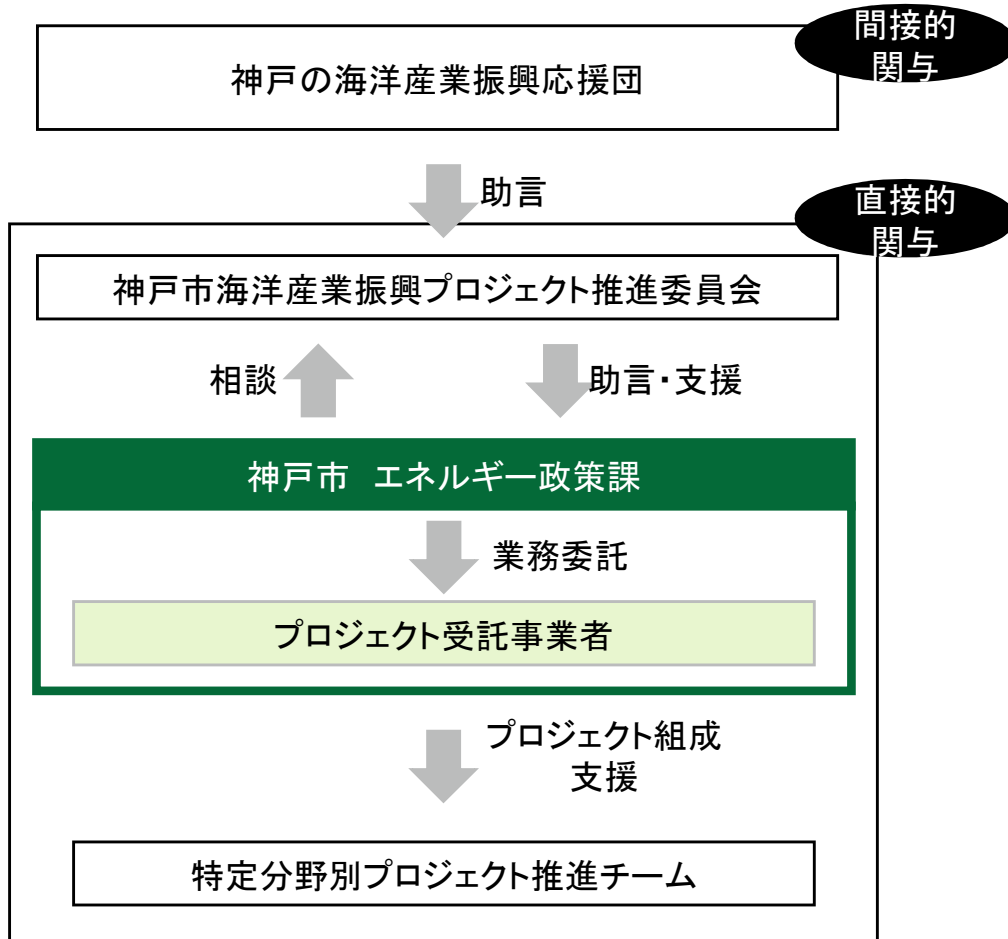
小・中学生には海を身近に感じてもらう取り組みを、高校生以上は次世代の海洋人材を育成するための取組を実施

機能⑥: 普及啓発

	小・中学生	高校・大学生	海洋産業関係者(社会人)
目的	市内の子供に、海を身近に感じてもらう、海に係る仕事への興味・関心を持ってもらうため、各種イベントを開催	神戸市で学んだ人材が、実際に海洋産業に輩出するため、海洋産業に触れる機会として、各種イベントを開催	人材育成に関する情報共有を図り、海洋産業関係者間での連携を促進するため、情報共有における場や手段を提供
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 体験型イベントの実施 (ex.船の搭乗体験、港湾施設シミュレーション体験 等) ② 海に関するプチ学習 ※体験型イベントと同時開催 ③ 既存施設の活用 (ex.図書館等の企画展への出展 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体験型イベントの実施 (ex.企業見学、企業インターン、サマープログラム 等) ② 海洋産業に関するプチ講座 (ex.オンライン講座の掲載、座談会 等) ③ ビジネスアイデアコンテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係者連絡会の開催 ② 海洋産業振興プロジェクトにおける情報の収集・発信の活用
連携先組織	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育機関 神戸大学、神戸市立工業高等専門学校、海技教育機構、港湾職業能力開発短期大学、さかなの学校、港湾技能研修センター、B&G神戸海洋クラブ ② 産業支援組織 テクノオーシャン・ネットワーク、神戸市産業振興財団 ③ その他 須磨海浜水族園、神戸海洋博物館 		

海洋政策全体における推進体制

体制図



体制における役割・位置づけ

神戸市 エネルギー政策課	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海洋産業振興における方針の決定及び施策立案・実行 ✓ 海洋産業振興における施策の進捗管理 ✓ 各種会議体メンバーの選出及び招集・振興 ✓ 連携の協力要請
プロジェクト受託事業者	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海洋政策の推進・運営支援
神戸市海洋産業振興プロジェクト推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業推進の進捗に対する助言 ✓ 神戸市からの相談に対する支援
特定分野別プロジェクト推進チーム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ テーマ内における取組むべき事業分野への助言 ✓ 個別プロジェクト事例に対する助言（プロジェクト実行の是非） ✓ 各種ニーズの収集 ✓ 特定分野における技術・取組事例の情報提供
神戸の海洋産業振興応援団	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神戸市における海洋産業振興に向けた方針及び施策に対する助言 ✓ 海洋に関する情報提供

10年後の目指すべき姿を達成するために必要な、3年後のイメージを記載

3年後及び10年後の目指すべき姿(1/3)

	方針	3年後の目指すべき姿	10年後の目指すべき姿
海洋産業ネットワーク	目的達成のための効果的な体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大学・域内外企業・有識者等とのネットワークが構築されており、課題解決に向けたプロジェクトが組成されている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外の海洋に関する「知」が神戸に注目する環境の確立 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 海洋関連企業・団体にとって魅力的なネットワークの構築 ② 事業化に向けたプロジェクトの組成 ③ 新たな挑戦企業や団体の海洋産業ネットワークへの参画 ④ 海洋産業ネットワークの拡大・充実
	海洋産業振興ネットワークの促進		
	海洋産業ネットワークの拡大		
情報の収集・発信	情報収集における仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内外における海洋関連の技術情報・最先端研究動向が集まり、国内外に向けて神戸の取組が発信されている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外の海洋に関する「知」が神戸に注目する環境の確立 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国内外における技術情報・最先端研究動向の収集 ② 国内外に神戸の取組を発信
	「伝える」ではなく「伝わる」情報発信		
コーディネーター	ワンストップサービスの実現 (海洋関係者への連携機能の強化)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コーディネーターにより、企業間及び産学連携による海洋関連産業の調査・研究、実証の促進等が行われている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外の海洋に関する「知」が神戸に注目する環境の確立 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① コーディネーターにより、企業間及び産学連携の実現から様々なプロジェクトが組成 ② 多くの企業や研究機関等の興味・関心を有し、民間資金の獲得を実現
	伴走型支援の実現		

10年後の目指すべき姿を達成するために必要な、3年後のイメージを記載

3年後及び10年後の目指すべき姿(2/3)

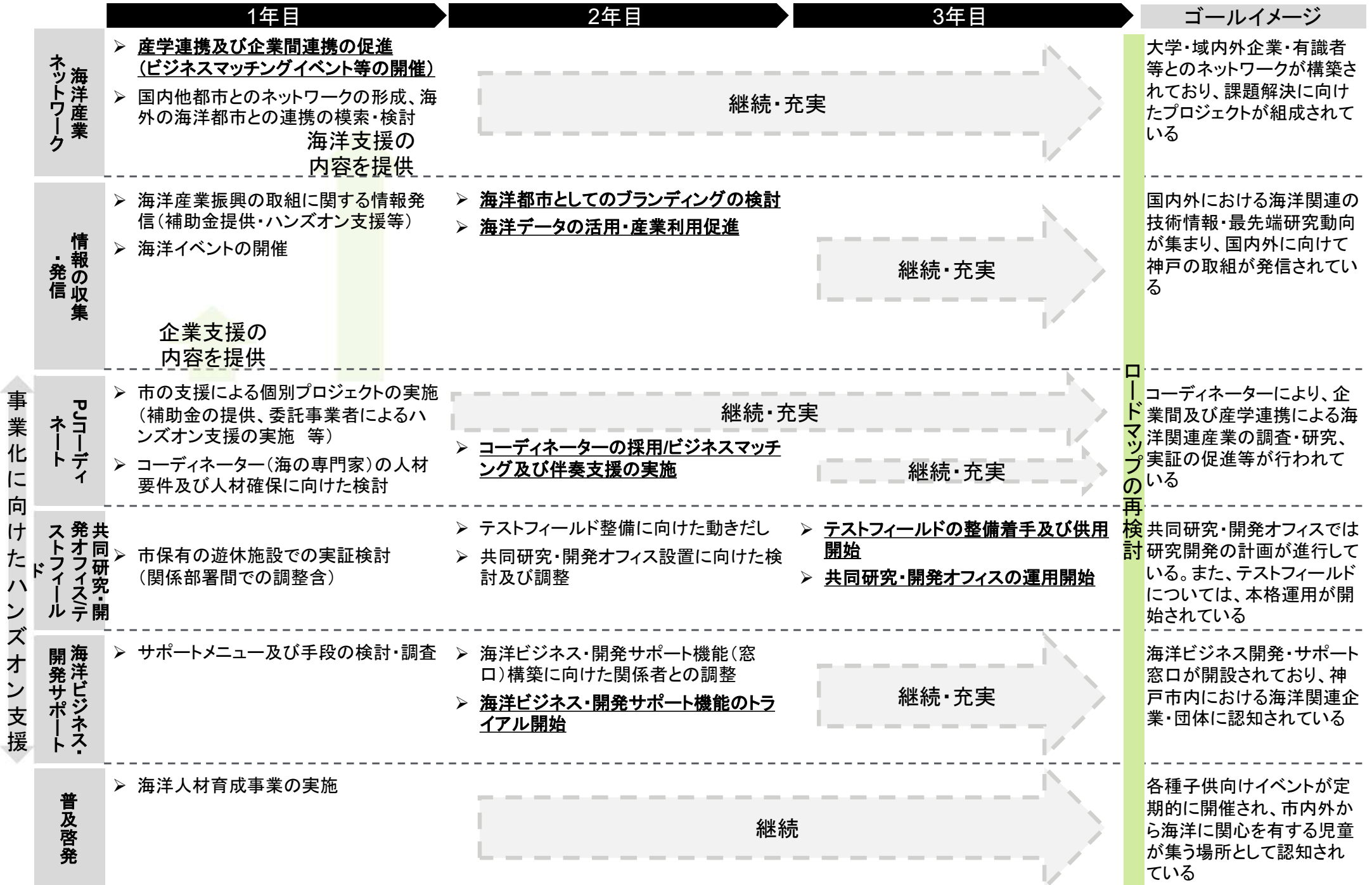
	方針	3年後の目指すべき姿	10年後の目指すべき姿
共同研究・開発オフィス テストフィールド	自立運営を目指したフィールドの提供	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究・開発オフィスでは研究開発の計画が進行している。また、テストフィールドについては、本格運用が開始されている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の海洋に関する「知」が神戸に注目する環境の確立 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究開発拠点としてフィールドが効果を発揮 ② 市内外に当該施設の存在が広く認知
	ニーズに応じた柔軟なフィールド提供 (オフィス・海又は陸のフィールド 等)		
海洋ビジネス・開発サポート	ワンストップサービスの実現	<ul style="list-style-type: none"> 海洋ビジネス開発・サポート窓口が開設されており、神戸市内における海洋関連企業・団体に認知されている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の海洋に関する「知」が神戸に注目する環境の確立 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 当該機能の存在が全国に認知 ② 海洋関連企業等からの支援要請が定着
	規制緩和等における支援		
	製品等に関するブランディング		
普及啓発	継続した普及啓発活動の実施 (小学生から大学生までを対象)	<ul style="list-style-type: none"> 各種子供向けイベントが定期的に行われ、市内外から海洋に関心を持つ児童が集う場所として認知されている 	<p><10年後のゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋に関する「知」の育成につながる環境を確立し、育成に関与する人材が集積 <p><達成すべき状態></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 定期的なイベントの開催により市内外から若者・学生が集う
	海洋関連団体等との連携による相乗効果の醸成		

10年後の目指すべき姿を達成するために必要な、3年後のイメージを記載

3年後及び10年後の目指すべき姿(3/3)

	方針	3年後の目指すべき姿	10年後の目指すべき姿
港湾機能の高度化・強靱化	港湾機能高度化に向けた、既存プロジェクトの促進	<ul style="list-style-type: none"> ▶ CONPAS導入による効果が示されており、神戸港湾関連プレイヤーによって活用している ▶ 港湾内施設における水素エネルギー等の活用が進行している 	神戸港がAIターミナルとして国内で認知されており、そこで得られた知見・技術・仕組みが他都市へ横展開が図られている
	カーボンニュートラルへの挑戦		
水素エネルギーの実用化	水素エネルギーの実用化に向けた、既存プロジェクトとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 港湾内施設における水素エネルギー等の活用が進行している 	港湾エリアで水素エネルギーが活用され、水素エネルギー実用化としてのショーケースとして認知されている
	水素を活用した船舶活用の実現		
海洋ロボット	特定テーマにおける海洋ロボットの実用化促進	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 海洋ロボットのテストフィールドが設置され、域内外の海洋関連プレイヤーに活用されている ▶ 海洋ロボットの利活用が促進されている 	国内外から海洋ロボットに関する技術及び知識が神戸に集積されており、海洋ロボット開発においての拠点となっている
	テストフィールド等を活用した実証事業の実施		
水産業へのIT活用	新たな陸業養殖への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ▶ IT企業と域内養殖事業者が連携し、ITを活用した養殖業の生産が始まっている。また、ITを活用した陸上養殖の生産が開始されている 	スマート水産により水産資源の持続利用と水産業の成長産業化を両立した次世代の水産業が実現されている
	ITを活用した養殖の実現		

スケジュール(海洋産業×知の集積)



事業化に向けたハンズオン支援

ロードマップの再検討

スケジュール(取組テーマ)

関連機能

- ① 海洋産業ネットワーク
- ② 情報の収集・発信
- ③ PJコーディネート
- ④ 共同研究開発オフィス・テストフィールド
- ⑤ 海洋ビジネス・開発サポート

1年目

2年目

3年目

ゴールイメージ

高度化・強靱化 港湾機能の

- 既存プロジェクト(港湾情報システム「CONPAS」との連携)

① ③

- 神戸港湾内へCONPASを本格導入

① ② ③

- 導入効果の検証

① ② ③

CONPAS導入による効果が示されており、神戸港湾関連プレーヤーによって活用している

水素エネルギーの 実用化

- 港湾内施設での水素活用に向けた検討

①

- 港湾内施設での水素活用に向けた実証実験

① ② ③

- 港湾内施設での水素活用に向けた実証実験

① ② ③ ⑤

継続・充実

港湾内施設の利用エネルギーとして水素の活用計画が進行されている

海洋ロボット

- テストフィールドでの実践的テスト実施に向けた調査・調整
- 海洋ロボットの利活用促進

① ③ ④

- テストフィールドにおける実証事業の実施
- 海洋ロボットの利活用促進・ブランディング化検討

① ② ③ ④

- 神戸で海洋ロボットのテスト運行実施誘致
- 海洋ロボットの利活用促進・ブランディングの推進

① ② ③ ④

海洋ロボットのテストフィールドが設置されていることが、域内外の海洋関連プレーヤーに認知されている

水産業へのIT活用

- 陸上養殖 施設設置参画企業の呼込
- 海面養殖におけるスマート水産の実証実験

① ③

- 陸上養殖場のプロジェクト開始
- スマート水産の拡充

① ② ③

- 陸上養殖の生産開始とIT活用
- スマート水産の拡充

① ② ③ ⑤

IT企業と域内養殖事業者が連携し、ITを活用した養殖業の生産が始まっている。また、ITを活用した陸上養殖の生産が開始され、域内において認知されている

PDCAを回しながら取組テーマの
取捨選択を行い産業の創出を推進

その他有望テーマ

マリンバイオ
テクノロジー

海水の淡水化

ブルー・カーボン

洋上風力

二酸化炭素
削減技術

海洋汚染への
対策

など

様々なテーマの実績が広がることにより、海洋産業都市としてのイメージが広がり、新たな産業を呼ぶようになる

国が進める成長戦略との連携を図ることで施策の取組を行う

港湾機能の高度化・強靱化における取組施策

施策①:カーボンニュートラルポート(CNP)の取組み

- 日本では、港湾において、水素、アンモニア等の次世代エネルギーの大量輸入や貯蔵、利活用等を図るとともに、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成に取り組んでいる。
- 全国でのCNP 形成を目指すため、6地域においてCNP 検討会を開催。
(対象港湾)
神戸港、小名浜港、横浜港・川崎港、新潟港、名古屋港、徳山下松港
- 神戸市の特徴を活かした取組として、トレーラー等向け水素ステーションの整備や、トレーラー等への燃料電池導入、港湾荷役機械への燃料電池導入の促進等の取組みを検討する。

施策②:CONPASの実装

CONPAS: Container Fast Pass(新・港湾情報システム)

- コンテナターミナルのゲート処理等の効率化を目的としたシステム。
- 2017年度より横浜港において試験運用が実施。
- 令和2年2月に阪神港での導入に向けて「阪神港におけるCONPAS 導入に向けた検討会」が立ち上げられ、令和3年3月23日には神戸港において試験運用(第1回)が実施された。

施策③:港湾等での海洋ロボット等実証実験

- 国内では海洋構造物の老朽化における保守・点検ニーズの高まりに対して、高齢化に伴う潜水作業員が不足してきているため、今後は海洋ロボットの活用ニーズの拡大が想定されている。
- 国土交通省は令和2年11月より「海における次世代モビリティに関する産学官協議会」を開催し、ASV(小型無人ボート)やAUV(自律型無人潜水機)、ROV(遠隔操作型無人潜水機)等の海における次世代モビリティの活用を検討している。
- 今後、神戸市をフィールドに水産・港湾等での実証実験を実施する。

国が進める成長戦略や、神戸市で推進されている計画との連携を図ることで施策の取組を行う

水素エネルギーの実用化における取組施策

施策①:カーボンニュートラルポート(CNP)の取組み

- 日本では、港湾において、水素、アンモニア等の次世代エネルギーの大量輸入や貯蔵、利活用等を図るとともに、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成に取り組んでいる。
- 全国でのCNP 形成を目指すため、6地域においてCNP 検討会を開催。
(対象港湾)
神戸港、小名浜港、横浜港・川崎港、新潟港、名古屋港、徳山下松港
- 神戸市の特徴を活かした取組として、トレーラー等向け水素ステーションの整備や、トレーラー等への燃料電池導入、港湾荷役機械への燃料電池導入の促進等の取組を検討する。

施策②:水素エネルギー利用技術開発実証

- 水素エネルギーは、発電・輸送・産業など幅広い分野で活用が期待されているカーボンニュートラルのキーテクノロジーとして注目されている。
- 神戸市では、「液化水素サプライチェーン構築実証事業」と「水素エネルギー利用システム開発実証事業」を実施されている。
- 今後、先駆的な水素エネルギー利用技術開発実証事業の成果を神戸市域内での展開を図る。

施策③:水素燃料電池船の活用

- 2018年4月に国際海事機関(IMO)が国際海運分野からのGHG 排出量を2050年までに半減させ、今世紀中の早期にゼロとする目標を掲げている。
- 日本では、2020年3月に「国際海運のゼロエミッションに向けたロードマップ」を策定し、水素を燃料として利用する船舶を含めたゼロエミッション船の商業運航の早期実現を目指している。
- 神戸市においても民間事業者が取り組む研究や技術開発について、積極的に支援を行う。

海洋ロボットの活用用途の拡大及び機能拡充に向けた施策へ取り組む

海洋ロボットにおける取組施策

施策①: 海洋ロボットの利活用促進・人材育成・普及啓発

- 神戸市内での海洋ロボットの生産はある程度限界もあるが、海洋ロボットの活用ニーズを高め、神戸市での海洋ロボットの利活用拡大を図ります。
- 海洋ロボットの存在を幅広く一般にも知ってもらうために、「海洋ロボット体験会」や「海洋ロボット操縦体験会」等の普及啓発活動を実施する。
- また子どもや若者に対する海洋人材育成の取り組みでも海洋ロボットを活用し、将来的な海洋ロボットの生産者・利用者を育てていく。

施策②: 水産・港湾等での実証実験の実施

- 国土交通省は令和2年11月より「海における次世代モビリティに関する産学官協議会」を開催し、ASV(小型無人ボート)やAUV(自律型無人潜水機)、ROV(遠隔操作型無人潜水機)等の海における次世代モビリティの活用を検討している。
- 神戸市においては、貯水施設にて水中ドローンによる点検の可能性検証や水中カメラを活用したノリ養殖における食害調査のモニタリングを実施している。
- 今後、神戸市をフィールドに水産・港湾等様々な分野での実証実験を実施する。

施策③: テストフィールドでの実証実験の実施

- 実海域を使った実証実験フィールドや共同研究開発施設が少ないことから、施設設置に向けたニーズも高い。
- 福島ロボットテストフィールド(RTF)では陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点が整備されている。
- 神戸市内の公共施設などをテストフィールドとし活用できないかを検討し、海洋ロボットの開発に係る実証実験を実施する。

IT企業と水産業との連携を促進することで、施策の推進を図る

水産業へのIT活用における取組施策

施策①: 水産へのIT活用

- 水産業では昔ながらのアナログな手法が強く残っており、IT化など知の集積の余地が大きい。
- 国でも水産庁が「スマート水産」に取り組んでいる。
- 神戸市においては、水中カメラを活用したノリ養殖における食害調査のモニタリングや水中ドローンを活用した海底施設周辺の放水に係る生物モニタリングを実施している。
- 今後、神戸市をフィールドに水産等での実証実験を実施する。

施策②: 都心型陸上養殖への挑戦

- 陸上養殖は安定的な供給が可能で、国内外のマーケットも大きい。
- 神戸市においては、都市型の陸上養殖を目指し、参画企業を募っていく。
- 今後、プロジェクトを形成し、既存事業と陸上養殖の組み合わせを検討するとともに、ICTなどの先端技術やゲノム研究などへの展開を目指す。